

評価規準例 改訂版 数学 B Advanced (東書 数 B 002-901)

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と社会生活との関わりについて認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力を身に付けている。 ・確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。 ・日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

3 各章の観点別評価規準例

※部分は教科書該当箇所。「本文」は、該当ページの紙面から、例、例題、問を除いた部分。

1章 数列

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1節 数列					
1 数列	1	数列についての基本的な用語の意味を理解する。	・数列についての基本的な用語の意味を理解している。 ※例 1~3, 問 1, 2		
2 等差数列	5	等差数列について理解し、一般項や和を求めることができ	・等差数列について理解し、一般項などを求めることが	・等差数列について与えられた条件から一般項を求める	

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		る。	<ul style="list-style-type: none"> できる。 ※例 4~6, 問 3~5, 7, 8 ・さまざまな等差数列の和を求めることができる。 ※例 7~10, 例題 2, 問 9~14 	<ul style="list-style-type: none"> ことができる。 ※例題 1, 問 6 ・項の正負から, 等差数列の和の最大・最小について考察することができる。 ※例題 3, 問 15 	
3 等比数列	5	等比数列について理解し, 一般項や和を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・等比数列について理解し, 一般項などを求めることができる。 ※例 11~13, 問 16~18, 20, 21 ・さまざまな等比数列の和を求めることができる。 ※例 14, 問 22, 23 	<ul style="list-style-type: none"> ・等比数列について与えられた条件から一般項を求めることができる。 ※例題 4, 問 19 ・等比数列の和についての条件から等比数列を求めることができる。 ※例題 5, 問 24 	
4 和の記号 Σ	3	和の記号 Σ について理解し, 一般項が 3 次以下の多項式で表される数列の和を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・記号 Σ を用いた和の表し方を理解している。 ※例 15~18, 問 25~27 ・一般項が 3 次以下の多項式で表される数列の和を, 記号 Σ の性質などを用いて求めることができる。 ※例 19~21, 問 28, 30, 31 	<ul style="list-style-type: none"> ・ $\sum_{k=1}^n k^3$ の公式を, $\sum_{k=1}^n k^2$ の公式を導く過程と関連付けて導くことができる。 ※問 29 	<ul style="list-style-type: none"> ・ $\sum_{k=1}^n k^3$ の公式について, $\sum_{k=1}^n k^2$ の公式を導く過程と関連付けながら, 考えようとしている。 ※問 29
5 階差数列	2	階差数列について理解する。また, 数列の和と一般項の関係について理解し, 一般項を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・階差数列について理解している。 ※例 22, 例題 6, 問 32 ・数列の和と一般項の関係について理解し, 一般項を求めることができる。 ※例題 7, 問 33 	<ul style="list-style-type: none"> ・数列の和についての条件から数列の一般項を求めることができる。 ※問 34 	
6 いろいろな数列	2	いろいろな数列の和や, 群数列について考察することができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・分数列について, 一般項を差の形に分解することで, その和を求めることができる。 ※例 23, 例題 8, 問 35 ・等差数列 \times 等比数列の和に 	<ul style="list-style-type: none"> ・等差数列 \times 等比数列の和について, 等比数列の和の公式を導く過程と関連付けながら, 考えようとしている。 ※例題 9, 問 36

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
				<p>ついて、等比数列の和の公式を導く過程と関連付けて、その和を求めることができる。</p> <p>※例題 9, 問 36</p> <p>・群数列について考察することができる。</p> <p>※例題 10, 問 37</p>	
<p>探究</p> <p>$a_k = A_{k+1} - A_k$ を利用した数列の和の求め方</p>		<p>数列の和について学んだことを振り返り、数列の和の求め方について統合的・発展的に考察することができる。</p>		<p>・差の形に着目した等式を利用する数列の和の求め方を、統合的・発展的に考察することができる。</p> <p>※考察 1~3</p>	<p>・数列の和について学んだことを振り返り、考察を深めようとしている。</p> <p>※考察 1~3</p>
2節 漸化式と数学的帰納法					
1 漸化式	5	<p>漸化式について理解し、さまざまな事象の考察に応用することができる。</p>	<p>・漸化式について理解し、漸化式で定められた数列の一般項を求めることができる。</p> <p>※例 1, 2, 例題 1, 2, 問 1~4</p>	<p>・再帰的な関係に着目し、漸化式の考えを図形の考察に応用することができる。</p> <p>※例題 3, 問 5</p>	
2 数学的帰納法	3	<p>数学的帰納法について理解し、数学的帰納法を用いてさまざまな命題を証明することができる。</p>	<p>・数学的帰納法について理解し、数学的帰納法を用いて等式を証明することができる。</p> <p>※例題 4, 問 6</p>	<p>・数学的帰納法を用いて不等式を証明することができる。</p> <p>※例題 5, 問 7</p> <p>・数学的帰納法を用いて整数に関する命題を証明することができる。</p> <p>※例題 6, 問 8</p> <p>・漸化式を用いて表される数列について、数学的帰納法を用いて考察することができる。</p> <p>※例題 7, 問 9</p>	<p>・数学的帰納法による証明と他の証明方法を比較し、多面的に考えようとしている。</p> <p>※p.37-39 本文</p>
<p>探究</p> <p>数列の漸化式のさまざまな見方</p>		<p>漸化式について学んだことを振り返り、多面的に考察することができる。</p>		<p>・漸化式 $a_{n+1} = pa_n + q$ と初項で定められる数列 $\{a_n\}$ の一般項を求める方法について、多面的に考察すること</p>	<p>・漸化式について学んだことを振り返り、多面的に考察を深めようとしている。</p> <p>※考察 1~3</p>

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
				ができる。 ※考察 1~3	
探究 複利法とローンの返済		数列を日常の事象の問題解決に活用することができる。		・再帰的な関係に着目し、数列を利用して日常の事象に関する問題を解決することができる。 ※考察 1, 2	・数列について学んだことを、日常の事象の問題解決に生かそうとしている。 ※考察 1, 2

2章 統計的な推測

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1節 確率分布					
1 確率変数と確率分布	1	確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。	・確率変数が条件を満たす確率や確率分布を求めることができる。 ※例題 1, 問 1~3		
2 確率変数の平均と分散	4	確率変数の平均と分散、標準偏差の意味を理解する。また、確率変数 X と $aX + b$ におけるそれらの値の関係について理解し、求めることができる。	・確率変数の平均と分散、標準偏差について理解し、求めることができる。 ※例題 2~3, 例 1, 4~5, 問 4~5, 8~9 ・確率変数 $aX + b$ の平均と分散、標準偏差を、確率変数 X におけるそれらの値との関係を理解して求めることができる。 ※例 2~3, 6, 問 6~7, 10		
3 確率変数の和と積	3	確率変数の和の平均、および独立な確率変換の積の平均や和の分散を求めることができる。	・確率変数の和の平均、および独立な確率変換の積の平均や和の分散を求めることができる。 ※例 7~10, 問 11~14		
4 二項分布	2	二項分布の特徴を理解し、二項分布に従う確率変数 X が条件をみたす確率や、 X の平均、分散を求めることができる。	・二項分布の特徴を理解し、二項分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。		

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
			※例題 4, 例 11, 問 15~17 ・二項分布に従う確率変数について、平均や分散、標準偏差を求めることができる。 ※例題 5, 例 12, 問 18~19		
2節 正規分布					
1 正規分布	4	連続分布、正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。また、正規分布に近似することで二項分布について考察することができる。	・確率密度関数および連続分布の1つである正規分布について理解している。 ※例 1~2, 問 1~2 ・標準正規分布の性質や特徴について理解し、正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。 ※例題 1, 例 3, 問 3~5	・二項分布および正規分布の特徴に着目し、二項分布の正規分布による近似を利用して、二項分布で表される確率を考察することができる。 ※例題 2, 問 6	
3節 統計的な推測					
1 母集団と標本	3	標本調査の考え方について理解する。また、母集団の平均、分散、標準偏差を求めることができる。	・標本調査に関する用語について理解している。 ※問 1 ・復元抽出と非復元抽出、および無作為標本の考え方について理解を深める。 ※例 1 ・母平均、母分散、母標準偏差を求めることができる。 ※例 2, 問 2		
2 標本平均の分布	2	母集団分布と標本分布の関係、および標本平均の分布の特徴について理解し、標本平均の平均と標準偏差や、標本平均が条件を満たす確率を求めることができる。	・標本平均が条件を満たす確率を、正規分布を利用して求めることができる。 ※例題 1, 問 4	・母集団分布と標本分布の関係に着目して、標本平均の平均や標準偏差、標本平均の分布の特徴について考察を深めることができる。 ※p.86~89本文, 問 3	
3 推定	3	得られた標本から母集団の特徴を表す値を推測する方法と	・母平均に対する信頼区間の意味を理解し、母平均を推	・目的に応じて必要となる標本の大きさを区間推定の方	

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		して、正規分布を利用した信頼区間の考え方を理解し、母平均および母比率を推定することができる。	定することができる。 ※例題2, 問5~6 ・信頼区間の考え方を利用して、母比率を推定することができる。 ※例題4, 問8	法をもとに計算して標本調査を設計することができる。 ※例題3, 問7	
4 仮説検定	3	得られた標本から母集団に関する主張が妥当かどうかを判断する方法として、正規分布を利用した仮説検定の考え方を理解し、母平均および母比率に関する主張について仮説検定することができる。	・仮説検定の考え方や用語について理解し、棄却域について考察したり、母平均に関する主張について両側検定や片側検定をしたりすることができる。 ※例題5, 6, 問9, 10 ・仮説検定の考え方を利用して、母比率に関する主張について仮説検定することができる。 ※例題7, 問11, 12		
探究 世論調査と支持率		仮説検定の考え方を日常の事象の問題解決に活用することができる。		・仮説検定の考え方を利用して、日常の事象に関する標本調査の方法や結果について批判的に考察し、問題を解決することができる。 ※考察1~3	・統計的な推測について学んだことを、日常の事象の問題解決に生かそうとしている。 ※考察1~3

3章 数学と社会生活

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1節 現象と数学					
1 現象のモデル	23	日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現し、特徴を見いだして解決する活動を通して、	・社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解している。 ※p.107例1, p.108問1 ・日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問	・日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現することができる。 ※p.112問2~3, p.115問2~3,	・事象を数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを利用しようとしている。 ※p.107~129の間, 課題すべて

学習内容	時間	学習のねらい	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		社会生活などにおける問題を，数学を活用して解決する意義について理解する。	<p>題を解決する方法について知る。</p> <p>※p.111問1, p.114問1, p.116問4～5, p.128問1</p> <p>・ 散布図に表したデータを関数とみなして処理する方法について知る。</p> <p>※p.119問1, p.120問2</p>	<p>p.117問6～8, p.123問1～2, p.124問3～4,</p> <p>・ 数学化した問題の特徴を見だし，解決することができる。</p> <p>※p.113問4, p.117問9, p.121問3, p.124問5,</p> <p>・ 問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察することができる。</p> <p>※p.113課題1～2, p.125課題1～2</p> <p>・ 解決過程を振り返り，そこで用いた方法を一般化して，他の事象に活用することができる。</p> <p>※p.117課題1, p.121課題1, p.129課題1</p>	

* [1 学習の到達目標] は，文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」より作成しています。

* [2 評価の観点の趣旨] は，国立教育政策研究所(2021)「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 数学」より作成しています。